

俱知安町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

概要

本町は幹線の大動脈として各市町村へのJR・路線バス網があるものの、市街地における生活需要に対応した公共交通の整備が課題であったことから、平成21年度より3年間、まちなか循環バス“じゃがりん号”を実証運行し、一定程度の需要の見通しが立った平成24年4月より通年運行している。

俱知安町生活交通ネットワーク計画の目標・効果

大きく南北と東西の2ルート、経路等により8系統を設定

【定量的な目標】

各ルート1便あたり平均乗車数3.0人以上

【効果】

高齢者の通院・買い物等の生活利用はもとより、周産期や乳幼児を抱える主婦などの子育て施設等の利用増及び中心商店街の経済活性化。

平成25年度事業概要

市街地を大きく2つのルートに設定し、それぞれにおいて、旭が丘公園経由の便や臨時ルート便を設定

①東西ルート（新）	平日5便	土日祝4便	⑤東西ルート臨時・旭ヶ丘	平日2便	土日祝2便
②南北ルート	平日5便	土日祝4便	⑥南北ルート臨時	平日2便	土日祝2便
③東西ルート臨時	平日2便	土日祝2便	⑦南北ルート・旭ヶ丘	平日1便	土日祝1便
④東西ルート・旭ヶ丘	平日1便	土日祝1便	⑧南北ルート臨時・旭ヶ丘	平日2便	土日祝2便

地域公共交通の現況

JR函館本線	俱知安駅発着41本（普通列車）
ニセコバス(株)	幹線2路線（計3系統） 町内1路線（2系統）
道南バス(株)	幹線2路線（計3系統） 町内3路線（計5系統）
ハイヤー	2社（計36台）

俱知安町地域公共交通活性化協議会開催状況

- 平成24年6月14日 第12回協議会を開催
・地域内フィーダー系統確保維持計画の承認 ほか
- 平成24年10月12日 第13回協議会を開催
・運行ルート及びダイヤの一部改正 ほか
- 平成25年4月17日 第14回協議会を開催
・事業評価の協議 ほか

平成25年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

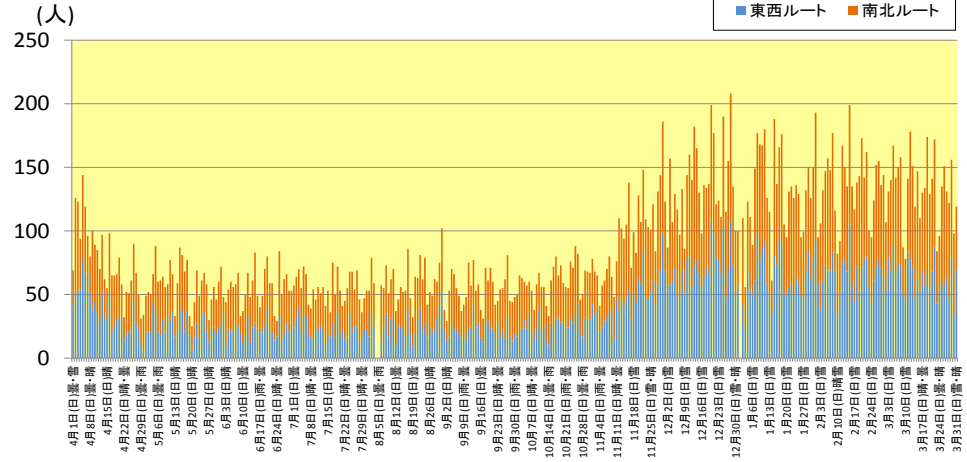
- 市街地4箇所ワークショップ形式による住民懇談会を実施し、平成24年11月12日よりルート・ダイヤを改正
- 収入確保方策として、印刷物広告等に加え、じゃがりん号の車内広告を実施

2) 運行ルート



3) 利用実績 (H24.4.1~H25.3.31)

31,704人 (東西14,760人 南北16,944人)



4) 収入実績 (H24.4.1~H25.3.31)

① 運送収入 2,562,449円 ※大人100円、中学生以下無料

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期計
東西	94,100	60,701	58,610	60,430	66,600	56,600	397,041
南北	107,420	68,611	82,900	81,360	79,300	77,800	497,391
窓口	0	0	0	0	0	0	0
月計	201,520	129,312	141,510	141,790	145,900	134,400	894,432

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下期計	合計
東西	71,955	113,510	166,210	149,810	145,210	146,621	793,316	1,190,357
南北	89,700	106,200	171,007	173,257	155,921	164,616	860,701	1,358,092
窓口	0	0	0	13,000	1,000	0	14,000	14,000
月計	161,655	219,710	337,217	336,067	302,131	311,237	1,668,017	2,562,449

② 運送雑収 486,000円 (じゃがりん号サポーター収入)

5) 事業実施の適切性

どの系統も計画どおりのルート・運行本数を達成し、適切に実施した。

6) 目標・効果達成状況

各系統の目標3.0人／便に対し、

①東西ルート（新）	6.2人／便
②南北ルート	4.7人／便
③東西ルート臨時	5.2人／便
④東西ルート・旭ヶ丘	8.2人／便
⑤東西ルート臨時・旭ヶ丘	8.5人／便
⑥南北ルート臨時	8.1人／便
⑦南北ルート・旭ヶ丘	10.0人／便
⑧南北ルート臨時・旭ヶ丘	8.5人／便

であった。

有雪期ということもあり、目標を大きく上回った。但し、例年夏場になると自転車等で利用者が少なくなることから、補助対象期間における平均利用者数は、現在よりも落ち込むことが予想されるが、昨年の利用状況を踏まえると、目標利用者数を超える見込みである。

7) 事業の今後の改善点

【財源確保】

- 利用実態を踏まえた協賛金事業の拡充
利用者の多い大型店を中心にバスを活用した協賛金事業を拡充する。

【利用促進】

- 福祉ハイヤーチケット制度の再構築
高齢者等の外出・健康推進及び財政効率の観点から、福祉ハイヤーチケット制度の一部をじゃがりん号活用に移行するための検討を行う。
- 運転免許返納制度との協働推進
安全安心の地域づくりのためにも、高齢者等の運転免許返納を奨励し、じゃがりん号をはじめとした公共交通の利用促進につながる取り組みを検討する。

【利便性】

- ルート・ダイヤ等の見直しの検討
新規大型スーパーの開店や、利用動向、意向調査等を踏まえた軽微な改正を検討する。

8) 地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果

自己評価のとおり、適切に事業が実施されている。今期の利用者数は、目標値以上となる見込みであるが、今後、より実態に即した適切な目標設定を行うとともに、運転免許返納制度の取組やルート・ダイヤの見直し等更なる利便性向上に向けた取り組みを実施し、利用促進が図られることを期待する。